

表彰、論文・学会発表

20世紀は、高度経済成長とともに、公害問題から地球規模的な環境問題へと発展した世紀であり、それに伴って環境アセスメント手法の変化、環境調査・分析技術の高度化(微量分析技術等)、環境リスク問題(ダイオキシン類、環境ホルモン、土壤汚染等)への対応等、技術の進歩にもめざましいものがありました。

環境問題ならびにその調査手法等が多様化する中、より正確に、より精密に、環境コンサルティングを実施していくために、当社では例年積極的な研究・業務の成果の論文発表や学会発表を行っているほか、業務遂行において、委託機関より表彰を受けております。

平成12年に受けた表彰、論文発表ならびに学会発表の一部をご紹介します。

■ 表彰

表彰の種類 : 優良業務表彰(2000年7月14日、建設省中国地方建設局長より表彰)
 当該表彰の業務 : 芦田川貯水池底生生物調査業務
 当該業務の概要 : 芦田川河口堰周辺で大発生するユスリカ類の調査(資料調査、現地調査)を行って生息実態を把握し、今後の防除策に関する調査計画を立案しました。

■ 論文発表

発表年月	掲載学会誌等	論文タイトル
2000年2月	環境管理(Vol.36, No.2)	自動車から排出される亜酸化窒素とその低減対策について
2000年6月	南紀生物(第42巻第1号別冊)	兵庫県千種川河口で採集されたヒナユキスズメ(腹足綱)
2000年6月	南紀生物(第42巻第1号別冊)	高知県甲斐川で採集されたケフサヒライソモドキ(イワガニ科)
2000年7月	応用生態工学(Vol.3, No.1)	An evaluation of waterfowl sampling methods for the national census on river and dam lake environments
2000年7月	応用生態工学(Vol.3, No.1)	The relationship between waterfowl assemblage and environmental properties in dam lakes in central Japan: implications for dam management practice
2000年8月	大阪市立自然史博物館会誌「Nature Study」(Vol.46, No.8)	大阪湾初記録のヒライソモドキ属(イワガニ科)の2種

■ 学会発表

発表年月日	発表学会等	発表内容*
2000年 3月16～18日	第34回日本水環境学会 (全9題)	内分泌攪乱化学物質(環境ホルモン)、生化学的分析法に関する研究 (LC/MSによる環境ホルモンの分析法検討、酵素活性阻害法によるアオコ毒素濃度の測定、ヒメダカに及ぼす環境ホルモンの世代影響、その他) 環境保全、環境創造に関する研究 (湾における生物による浄化、沿岸部の底質環境とマクロベントス分布、湾の汚濁に伴うアマモ分布の消長、その他)
2000年 3月24日	日本音響学会 騒音・振動研究会	全国の直轄国道沿道における騒音実態
2000年 3月27日	2000年度日本海洋学会 春季大会シンポジウムA	海洋生物調査による干潟浅海域の現況把握と影響予測の方法
2000年 5月17日	第61回分析化学討論会	エレクトロスプレーイオン化—質量分析における共存物質による感度の影響
2000年 6月20～22日	第9回環境化学討論会 (全13件)	ダイオキシン類、PCBsの調査・分析手法に関する研究 (大気降下物中のダイオキシン類同族体の構成比率、フェムトグラムレベル分析手法、水中(環境水、超純水等)のダイオキシン類、PCBsの大量濃縮と微量分析、遠隔監視システムによるダイオキシン類採取装置の精度管理、その他)
2000年 7月3日～7日	第1回国際水協会世界会議 (1st World Congress of the IWA, Paris)	Estrogenic Influences of Estradio, p-Nonylphenol and Bisphenol-A on Japanese Medaka (<i>Oryzias latipes</i>) at Detected Environmental Concentrations

*1 発表内容は、必ずしも発表タイトルではありません。